

特集2 自転車ヘルメットの普及と着用の定着化

1 自転車に関する交通事故発生状況

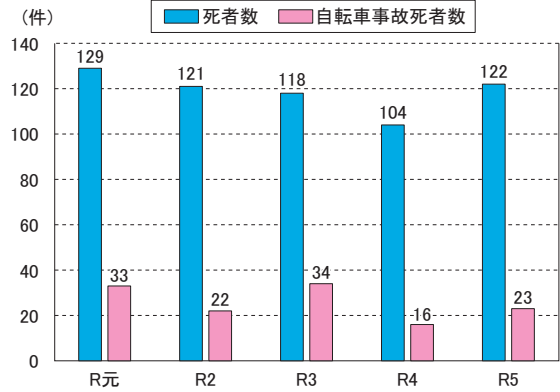
1 自転車に関する交通事故発生状況

近年、交通事故死者数は減少傾向で推移していましたが、令和5年は122人と前年から18人増加しました。増加に転じるのは6年ぶりです。

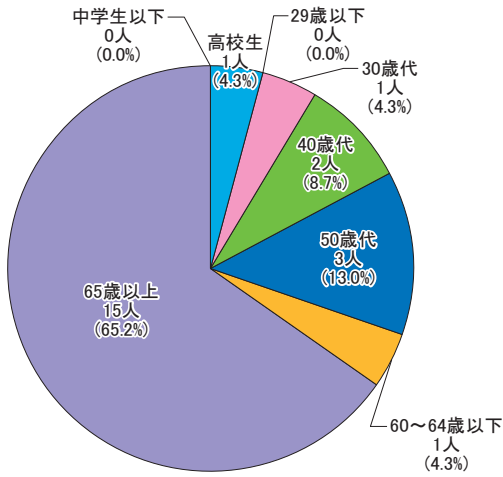
自転車事故死者数はおおむね横ばいで推移しており、自転車事故死者の年齢層別では、65歳以上の高齢者が15人と最多となっています。

また、違反別の自転車事故死傷者数では、約7割に何らかの法令違反がありました。

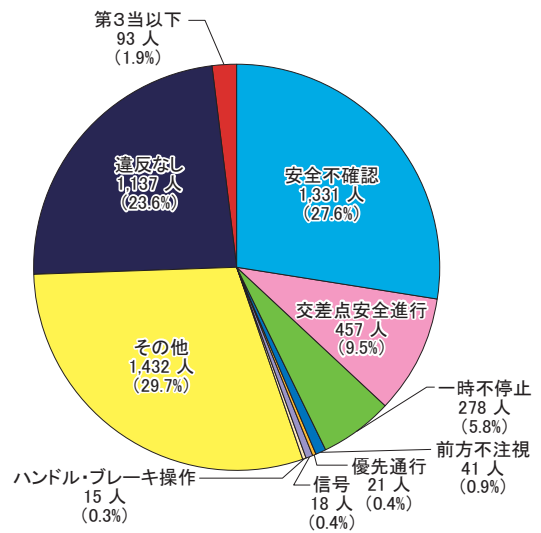
交通事故死者の推移(5年間)



年齢層別・自転車事故死者数(令和5年中)

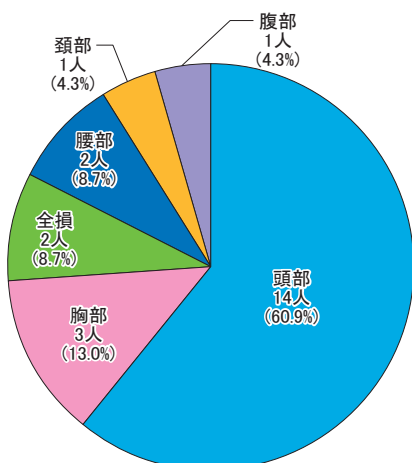


違反別・自転車事故死傷者数(令和5年中)



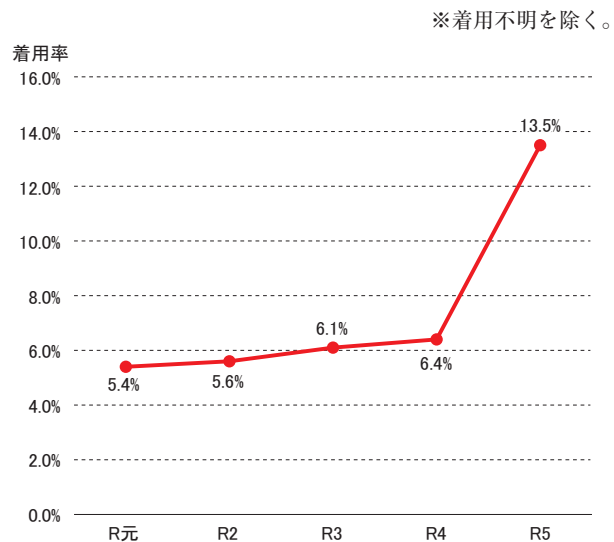
2 自転車事故死者の主な損傷部位とヘルメット着用率

自転車事故死者の主損傷部位(令和5年中)



※自転車事故死者23人のうち、ヘルメット着用者は0人。

自転車事故死傷者ヘルメット着用率の推移(5年間)



2 自転車ヘルメット着用の促進に向けた取組

1 自転車交通安全教育における呼び掛け

こども自転車運転免許制度や高齢者自転車安全講習会をはじめとする自転車交通安全教育の機会に、自転車の交通ルールやマナーのほか、自転車乗用時における頭部保護の重要性及びヘルメット着用による被害軽減効果について教育することによりヘルメット着用の促進をしています。

高齢者自転車安全講習会



2 広報啓発活動の推進

街頭啓発活動やイベント会場におけるヘルメット試着体験会等のほか、県警ホームページやSNSを通じ、自転車ヘルメット着用の呼び掛けを行っています。

また、啓発動画を制作し、プロスポーツ競技会場、公共施設、商業施設大型ビジョン等において放映し広報啓発活動を推進しています。

街頭啓発活動の状況



プロスポーツ競技会場における啓発動画の放映



3 自転車ヘルメット着用モデル校の委嘱

全ての自転車利用者に対する乗車用ヘルメット着用の努力義務化(令和5年4月)を機に、自転車事故死傷者数に占める割合が高い高校生から自転車ヘルメット着用の促進を図るため、県内の高等学校5校を「自転車ヘルメット着用モデル校」に委嘱しました。ヘルメットの贈呈、街頭啓発活動、啓発動画の制作、スローガン募集等の活動を通じ、生徒の交通安全意識を高めるほか、地域における自転車ヘルメット着用の促進と定着化に向けた活動を推進しています。

委嘱式の状況



街頭啓発活動の状況



優秀スローガンを掲載したステッカー

道路交通法の一部改正
2023年4月1日から

全ての自転車利用者に対する
乗車用**ヘルメット着用**の**努力義務化**

令和4年度自転車ヘルメット着用促進
優秀標語

自転車と君の相棒 ヘルメット

学校法人佐藤栄学園埼玉栄中学校 木村美花さん

埼玉県警察・(一財)埼玉県交通教育協会・(一社)埼玉県指定自動車教習所協会

道路交通法の一部改正
2023年4月1日から

全ての自転車利用者に対する
乗車用**ヘルメット着用**の**努力義務化**

令和4年度自転車ヘルメット着用促進
優秀標語

ヘルメット あなたの命のパートナー

埼玉県立所沢商業高等学校 中島理彩さん

埼玉県警察・(一財)埼玉県交通教育協会・(一社)埼玉県指定自動車教習所協会

コラム

自転車ヘルメット未着用の方々からは、「まわりが着用していないから、恥ずかしい。」といった意見が多く聞かれます。そこで、統一行動として自転車ヘルメットを着用する団体等を募集する「かぶる・ひろがる・命を守る みんなでカチッと!!プロジェクト」を令和5年11月に始動いたしました。

グループごとに着用することでヘルメットへの抵抗感を排除し、交通事故時の被害を軽減するとともに、交通社会に貢献していただく取組です。

シニア世代は社会貢献意識が高いことに着目し、シルバー人材センターを中心に参加を呼び掛けたところ、2か月で県内20団体等から参加申請があり、徐々にではありますが“命を守る”自転車ヘルメット着用の輪が広がりつつあることを実感します。

公益社団法人東松山市シルバー人材センター



浦和レッズユース・ジュニアユース・ジュニア



この取組が県民の方々に広がり、自転車ヘルメットの普及と着用が定着化することにより、一人でも多くの命が交通事故から救われることを願っています。